

第 25 期横浜市スポーツ推進審議会 第 7 回会議

令和 4 年 5 月 17 日 (火)

横浜市役所 18 階 さくら 14 会議室

## 1 開会

○熊坂部長 お待たせいたしました。ただいまから第25期横浜市スポーツ推進審議会第7回会議を始めます。このたびは、皆様大変お忙しい中、御参加いただきまして、誠にありがとうございます。

## 2 定足数確認

○熊坂部長 本日は、委員総数13名のところ、リモートでのご出席7名を含み、10名にご出席をいただいておりますので、横浜市スポーツ推進審議会条例第6条第2項の規定に基づき会議は有効に成立しております。

この後、萩委員が途中参加されますので、参加者は11名になる予定でございます。なお、小泉委員、平井委員は、途中でご退席されると伺っておりますので、ご了承下さい。また、大日方委員、荒井委員の後任として本日付けで委嘱させていただきました、梅田委員からご欠席の連絡をいただいております。委員の皆様に加えて、教育委員会事務局、健康福祉局、環境創造局、リモートにて横浜市スポーツ協会も出席しております。

## 3 市民局スポーツ統括室長あいさつ

○熊坂部長 はじめに、4月1日付けで市民局スポーツ統括室長が人事異動で交代しましたので、着任いたしました直井から、ご挨拶申し上げます。

○直井室長 皆様こんばんは。4月1日付けで市民局スポーツ統括室長に就任しました、直井ユカリでございます。本日はお忙しい中、第25期横浜市スポーツ推進審議会第7回会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

2年前までスポーツ統括室におりましたので、当時お世話になった先生方に再びお会いすることができまして、とてもうれしく思っております。新型コロナウイルス感染症には2年以上にわたり、本当に苦しめられました。まだ収束はしておりませんが、これからも感染症対策をしっかりと行い、人もまちも元気を取り戻して行かなければなりません。元気づくりや人と人との繋がりづくりには、スポーツは大変有効だと思っております。スポーツ統括室を離れておりました2年間は、中区役所におりましたけれども、中区はオフィス街、住宅街、繁華街など、多様な顔を持ったまちで、住民も外国籍の方が18区中でもっとも多く、11人に1人が外国人という状況でした。そのような中で、ダイバーシティ&インクルージョンの視点の大切さを実感したところでございます。今後横浜にお住まいの方のみならず、横浜で働いている方、そして横浜にお越しになる方が年齢、性別、国籍、障害の有無に関わらず、共にスポーツを楽しみ、交流する機会を設け、スポーツを通じてまちの賑わいと、誰もが暮らしやすい行政社会づくりに取り組みたいと考えております。皆様にはご指導、ご助言をいただきますよう、お願い申し上げます。

本日の議題は、横浜市におけるスポーツ振興についての答申となる「第3期横浜市スポーツ推進計画」について、となっております。皆様には第1回の会議から貴重なご意見を多数いただいているところでございますが、本日も忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

また、再整備をしております横浜文化体育館のメインアリーナとなる施設について、名称を色々ご議論いただきました。現在開会中の横浜市会、令和4年第2回定例会において、横浜 BUNTAI として条例の改正事案を上程しております。明日から本格的な議論に入り、予定では6月上旬に議会の議決をいただいて、正式に横浜 BUNTAI ということで名称を決定する予定でございます。皆様には色んな視点からご議論いただきまして、本当にありがとうございました。本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。

**○熊坂部長** 本審議会はスポーツ基本法第31条及び横浜市スポーツ推進審議会条例第1条の規定に基づき設置されているものでございます。横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条の規定に基づき、公開の対象となり、議事録につきましても閲覧の対象となることを御了承ください。なお、本日傍聴希望者はいらっしゃいません。

議事録署名人につきましては、第1回会議において決定したとおり、2名ずつで持ち回りでいただくこととなっております、本日はゼッターランド委員、石黒委員にお願いいたします。

なお、前回の審議会の議事録につきましては、お手元に配付いたしましたので、後ほど御覧ください。

それでは、これ以降の進行につきましては、山口会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

## 4 議題

横浜市におけるスポーツ振興について（答申案）

「第3期横浜市スポーツ推進計画」

**○山口会長** 皆さんこんばんは。本日もよろしくお願いいたします。それでは本日の議題、横浜市におけるスポーツ振興について「第3期横浜市スポーツ推進計画」です。議題につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

**○事務局** 本日は、資料1と2がございまして、資料2は55ページになります「第3期横浜市スポーツ推進計画」の案となっておりますが、今回は資料1の「第3期横浜市スポーツ推進計画（答申案）について」という、A4裏表の資料でご説明させていただきます。

それでは、資料1をご覧ください。「第3期横浜市スポーツ推進計画（原案）」につきまして、令和4年3月11日に開催させていただきました、第6回の審議会でいただいたご意見等を踏まえ、今回答申案を作成いたしました。

「1 追加・修正した主な点」でございます。本編の「第1章5 計画の実現に向けた連携・協働体制」で、「意見等」とあります。前回の審議会で、スポーツ推進に向けた26の取組と書かれておりますが、その「各取組はどういう人が中心に取り組むのかが分かるような表現があると良い」というご意見をいただきました。各取組、基本的に「横浜市」が主語になるものでございますが、各取組それぞれに「横浜市」と主語を入れて行くのは分かりづら

くなることもございましたので、「修正内容」とありますが、横浜市が各団体と連携・協働して推進する計画であることを明確化するというので、本文の5ページに、主語として「横浜市は」と下線部を追加して、全体的な表現にさせていただきました。

「第2章1 社会情勢の変化」では、国の第3期スポーツ基本計画が令和4年3月25日に策定をしたことを受けまして、横浜市の計画でも参酌するというので、第3期スポーツ基本計画に記載された、3つの新たな視点を追加いたしました。内容としては、「共生社会の実現や多様性と調和への関心がより一層高まる中、令和3年度に策定された、第3期スポーツ基本計画では、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すため、次の3つの視点が必要になるとされています。という社会情勢の変化ですが、①社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に対応するというスポーツを『つくる／はぐくむ』という視点。②様々な立場・背景・特性を有した人・組織が『あつまり』『ともに』活動し、『つながり』を感じながらスポーツに取り組める社会の実現を目指すという視点。③性別、年齢、障害の有無、経済的事情、地域事情等にかかわらず、全ての人々がスポーツにアクセスできるような社会の実現・気運の醸成を目指すという視点。」を付け加えさせていただきました。

裏面をご覧ください。「2 横浜市のスポーツにおける現状と課題」です。「子どもの体力を昭和60年頃の水準に戻すという目標が適切か、検討が必要」と原案では記載しておりましたが、「新たな計画では当該目標値は消えており、話が飛躍する印象がある」と審議会委員の方からご意見をいただきましたので、子どものスポーツ活動に関する新たな指標に合わせた表現に修正、ということで、本文の33ページに下線部を追加し、「テレビゲームやスマートフォンの普及によるスクリーンタイムの増加や、新型コロナウイルス感染症の拡大による生活リズムの変化など、子どもを取り巻く環境が大きく変化しており、第2期計画の昭和60年頃の体力水準に回復させるという目標は時代にそぐわないものとなっています。また、スポーツが好きな子どもは体力が高く、総運動時間も長いことが明らかになっています。今後は、誰とでもスポーツを楽しみたい、スポーツが好きだという子どもの意識を育み、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することが必要です。」としました。

次に「第3章1 目標」ですが、ここも先程と同様、国の第3期スポーツ基本計画を参酌しまして、国の第3期スポーツ基本計画に記載された新たな視点到合わせた表現に修正し、「横浜市は、誰もがスポーツを楽しみ、喜びを感じながら、「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できるよう、スポーツを「つくる／はぐくむ」等の国の掲げる新たな3つの視点を持ちつつ、環境や状況に応じてスポーツ施策を柔軟に見直し、改善しながら取組を推進し、「スポーツ都市横浜」の実現を目指します。」としました。

「2 スポーツ推進に向けた取組」です。こちらも前回の審議会で、「SDGsには17項目の目標があり、そのアイコンがついているが、もう少し当てはまるものがあるのではないか。」というご意見をいただきましたので、各取組とSDGsの関係性を再度精査させていただきました。アイコンを追加いたしました。

「参考資料1 用語集」です。こちらは市民の方から、市民が読んでも理解できるよう、用語集を充実してほしい、というご意見をいただきましたので、わかりにくい用語を精査いたしまして、用語集に追加をいたしました。

「2 今後のスケジュール」でございます。本日以降、令和4年5月に「横浜市スポーツ推進審議会からの答申」をいただきまして、6月1日に横浜の議会の常任委員会へご報告をさせていただき、その後、計画を策定、公表というスケジュールでございます。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○山口会長 ありがとうございます。それでは早速、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。順番は、途中退席される平井委員、小泉委員と、会場の小田委員を先に指名させていただきまして、その後はリモートでご出席の委員の皆さんを名簿順で指名させていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは平井委員、よろしくお願いいたします。

○平井委員 いよいよこの第7回会議を経まして、推進計画が完成するというところで、我々スポーツ推進委員としましても、決まりましたこの目標が、少しでも達成できますように、まだコロナ禍ではありますけれども、先日でいえば世界トライアスロン、パラトライアスロンの沿道警備に参加させていただきました。また各地区においても、グランドゴルフやランニングフェスタが始まってまいります。それに伴いまして、スポーツ推進委員もスポーツの裾野を広げられるよう、さわやかスポーツ普及委員さんや青少年指導委員とも協力し合いながら、今後とも頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○山口会長 ありがとうございます。今のご発言に、何かご意見、ご質問のある方いらっしゃいますか。無いようですので、小泉委員よろしくお願いいたします。

○小泉委員 先程ご説明いただいた、体力アップよこはま2020プランでの、昭和60年代頃の体力に戻すという目標から、少し変えて行った方がいいだろう、というご意見もあり、教育委員会でも「横浜市『健やかな体』育成プログラム」を新たに策定して、子どもたちの体力アップ、また健康増進についての取組を進めているところでございます。コロナもまだまだ収束には至っておりませんが、今のところ市内での活動や大会、部活等もやっております。ただ、働き方改革やスポーツ庁から出ている運動部活動の地域移行などがありますので、そちらの方も順次進めているところでございます。なかなか今まで取り組んできたものがありますので、スムーズにいくかどうか分かりませんが、これは時代の流れもありますので、そのあたりを加味しながら前向きに取り組んでいきたいと思っております。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

○山口会長 ありがとうございます。只今のご発言に、ご意見やご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。宮嶋委員、よろしくお願いいたします。

○宮嶋委員 部活動の地域移行に関してですが、地域によってかなり進捗状況が違うというお話を聞いています。実際には来年度からということなのですが、横浜の中学校の先生たちの考え方というのは、皆さん積極的なのでしょうか。それとも腰が引けているのでしょうか。そのあたりのお話を伺いたいです。

○小泉委員 国の施策でございますので、各校長もそこに理解を示してくれてはおります。ただやはり、これまで学校の中での部活動というのは、前回もお話させていただきましたが、生徒指導も含めて子どもたちとの関わりがありますので、そういうところで地域の指導者の方と上手くやっていくためにはどうしたらよいか、そこに課題があると思っておりますので、それを少しずつ解消できればと、校長たちも考えているところだと思います。色々ありますが、中学校体育連盟としましても、出来るところから、ということで進めております。各専門部

長からも、どのようなところに気を配っていったら良いかという意見を集約しているところでございますので、まだ「こうです」ということは言えないのですが、前向きにとらえていきたいとは思っております。

○山口会長 ありがとうございます。他にございますでしょうか。それでは小田委員お願いいたします。

○小田委員 推進計画ということでかなり計画を練っていただいておりますが、やるべきことが山ほどで、課題が多すぎて実際に出来るのだろうか、と思っております。原案への意見の中で、「各取組はどういう人が中心になって行うのか。」とありました。市としては「横浜市」というくくりでやっておられるようですけれども、各計画を実現させるということであれば、もう少し具体的なところであぶりだしても良いのかな、と思いました。実行という部分で、もう少し踏み込んで欲しいと思います。この中の1つでも2つでも、「やったぞ」というのが見えると良いと思います。後はもう、ある程度審議が進んだことなので、これではよろしいかと思いましたが、皆さんのご意見を聞きたいと思います。

○山口会長 ありがとうございます。只今のご発言に、ご意見、ご質問はございますか。よろしいでしょうか。具体的には今後の実践で、PDCAのチェックなどが入ってくるのだと思います。

それではリモートの皆様、恐縮ですが、委員会名簿順にご意見をお願いいたします。石黒委員お願いいたします。

○石黒委員 答申案にまでまとめてくださって、事務局の皆様ありがとうございます。1点目ですが、先程も出ました部活動の地域移行の関連の話で、個人的には部活動の地域移行の話は多分きっかけにすぎなくて、これによって地域のスポーツシステム、地域スポーツの在り方というのが、この計画の5年間で大転換する可能性があると感じています。その意味では、この計画の中でも当初の想定よりもかなり触れている部分が増えたので、それは良かったと思いました。ある種、今後のことは予想が立てづらい側面もありまして、今回計画は立ったのですけれども、柔軟に色々対応していく場面も出てくるかも知れませんが、正にPDCAのDoのところ、柔軟な対応が必要だろうということです。そうだとすると、そういった意味で主体をはっきりさせておくというのは、とても重要なことだなと感じました。計画の文章としては、最初のところに「横浜市が」と明記していただいたということで、よろしいかと思うのですけれども、そうとはいえ全部を市がやるというわけではなくて、取組それぞれによって、重要なステークホルダーというのは恐らく想定されるものがあると思いますので、そこをきちんと意識して取り組むということ。

もう1点は先程もご意見がありました、実行計画です。ロードマップみたいなものも、今後考えて行く必要があるのではないかと感じました。かなり取り組むべき事項が多いので、その中でも特に「これだけは、この5年間で絶対にやるんだ。」といったところを、事務レベルでも構わないかと思いますが、きちんと共有意識を持って取り組むということが、非常に重要になってくるのではないかと感じました。

もう1点は、関連団体で計画を周知していくということがとても重要になってくると思います。この時点で、出来た計画は、答申案なのでまだこれからだと思いますが、いわゆる製本して送って終わり、ネットに載せて終わり、ということではなくて、もっと効果的な周知の仕方があるか、と思ったのですが、何かお考えや計画があれば教えて下さい。

○事務局 ただいまご質問いただきました計画の周知につきましては、ネットと冊子も含めてですけれども、先程スポーツ推進委員の平井会長からもお話がありました通り、スポーツ推進委員の皆様に対してや、スポーツ協会、スポーツ協会の加盟団体など、スポーツの関係団体の皆様に広く周知、ご協力をお願いをしていきたいと考えております。

○石黒委員 配ることも大事ですが、やはり人が説明するのが大事だと思っております。機会があればそういう場が設けられると良いのでは、と感じました。

○山口会長 ありがとうございます。只今の石黒委員のご発言に、皆さんご意見やご質問がございましたら、頂戴したいと思います。よろしいでしょうか。それでは小熊委員お願いいたします。

○小熊委員 他の先生からもご指摘のあった点ですが、どこが主に関わるのか、ステークホルダーを明記する、かなり詳細に書いてくださっているところもありますが、スポーツ部局以外のところが関わる取組も多くあると思うので、そこが分かるような形を意識して書いても良いと思いました。取組1ですと「健康横浜21」に基づき、というような形で明確に書いてありますが、このような形で他の取組においても、スポーツ推進計画ではない他の計画、健康分野や都市計画など色々市の中にあると思いますので、そちらと関連するようなものを、例えばこの最後のウォークアブルなまちづくり、というのは恐らくそういう都市計画等にも載ってきているのではないかと思いますので、その辺との関連を示すと、他の部署の方にも訴求するというか、自分ごととして考えていただける、自分たちにも役立つのだな、というのが分かっていただけで、協力が得られるのではないかと、思いましたので、ちょっとそういうことを意識してステークホルダー、実際に動いてもらう人というか、動いていただきたい人を意識して整理すると良いと思いました。

改めて見ると、取組をSDGsに結び付けて書いてくださって、前回からだいぶアイコンが増えたように思います。前回もお伝えした2018年にWHOが出しているものと非常にマッチすると思いますので、どこかに一言『Global action plan on physical activity 2018-2030』を参照した」と書いておいても良いのかなと思いました。それは他の方のご意見も参考にさせていただければと思います。

○山口会長 ありがとうございます。只今のご発言に、ご質問やご意見がございましたらお願いいたします。ご指摘いただいたことに関しては、検討していただければと思います。それでは佐々木委員お願いいたします。

○佐々木委員 前回欠席してしまっただけで、繰り返しになってしまったら申し訳ありません。子どものところで、「昭和60年頃の水準に」というところについて変えていただいたようなのですけれども、「昭和60年頃の体力水準に回復させる目標は時代にそぐわない」という表現は、私は違和感があります。要するに、体力を向上するということはベースとなることなので、必要だと思います。時代に合った、子どもにとっての健康とか体力というのを獲得して、それを持つことが大事だ、という意味合いに取れば良いのかな、と思いました。内容としては同じなのかも知れないのですけれども、文言として拝見したときに、そんな風に思いました。

先程からもお話があるように、部活動の地域移行で、やはり指導者が、これまでも考えられてきたと思うのですけれども、更に大事な事柄になるのではないかと思います。その育成とか、発掘、活用といったところが、「学校は学校」ということではない、コミュニケー

ションを取りながら色んなところが連携して、というところを際立たせて、そういう認識を皆さんに持っていただけると良いのかな、と感じますので、そんなメッセージをぜひ伝えていただきたいと思います。指導者を育成するところはどこ、ここ、というような、どこが、と先程ありましたが、それを超えて共通の認識を持つというようなところが、これから大事になってくるのではないかと、というようなことを感じました。

○山口会長 ありがとうございます。只今のご発言にご意見やご質問のある方はいらっしゃるでしょうか。この昭和60年云々というのは、国の方に載せているものを参酌したわけではないですか。

○事務局 国の第3期基本計画の中では、「昭和60年の頃に戻す」という目標は取り下げられていますので、私どもも取り下げることにいたしました。

○山口会長 ということは、今佐々木委員からお話があった、表現方法を変えるということは可能ということですね。

○佐々木委員 すみません、前回いなかったのもので逆行するようなことを申し上げたら申し訳ないのですが、「時代にそぐわない」という表現よりは、「今の時代にあった」、とか、そういう表現の方が良いのではないかと、思いました。

○山口会長 ありがとうございます。他に委員の皆さんから何かございますか。

○石黒委員 佐々木先生がご指摘いただいたところですが、恐らく前回私が、「突然体力向上の目標が消えている。」と発言をしたと思います。佐々木先生と同じ意見でして、今の「そぐわない」という表現は、一目したときに強い感じを受けました。「60年代に戻す」という目標を、がむしゃらに水準を上げることだけではない、という話だと思いますので。今佐々木先生がおっしゃった方向で、修正いただくことに賛成です。

○山口会長 ありがとうございます。他にございますか。それでは萩委員、お願いいたします。

○萩委員 これからの時代に合った、という話が出てきましたが、部活動の問題は非常に大きな変革の時期だと感じます。ここ3、4年の間にかなり枠組みが変わっていくように思うので、その準備を本来だったらもうそろそろしないといけないということもありますし、基本計画の中にも、本来だったらその辺も想定したものが入ってくると良いと思います。多分部活動の問題は、地域スポーツをどうして行くのかという話にもつながって行って、学校教育だけではなくて、地域でどうサポートするかというものを具体的にあげていかないと、これは実現しないと思います。国は色んなガイドラインを今大急ぎで作っていますけれども、恐らくはそれでも、地方自治体でそれぞれの社会的資源を踏まえながら、指導者の問題、施設の問題、場所の問題、何をするかという具体的なスポーツ種目の問題もあるでしょうし、学校の部活動を取っ払って地域のスポーツに、ということになった時に、1つ考えられるのは、エリアで考えるというか、2校、3校の学校をまとめた形での部活動にしていくのか、何かそういうところも本来は考えていかないといけないと思いますので、何らかの形でその部分を、今後どうして行く、ということが書き添えられると良いと思います。もちろんそれぞれ色んなセクションで、色んなことを決めていかないといけないと思うのですが、やっぱりそれを横串差すような、要するに色んな立場の人が一堂に会してディスカッションする場を作らないと、恐らくこれ実現しないと思います。大田区ではそろそろ具体的に考えないといけない、ということで、色んな立場の人をいれて、研究会というか勉強会をする、



ディスカッションする場を作りたいと考えて、今年始めようとしています。何かそういう、話し合っただけでどうしていく、という場をどこかで作ってですね。これは、行政の話だけでは決してなくて、当然ながら民間や地域、色んなステークホルダーが一堂に会して話をしたいかな、と、今後の地域スポーツの振興というのは非常に難しいかな、と思うので、その辺も何か、計画の中に書き込めると良いと思います。

○山口会長 ありがとうございます。只今のご発言にご意見、ご質問のある方いらっしゃいますでしょうか。

○事務局 部活動に対してご意見いただきまして、ありがとうございます。委員の皆様からご意見いただいたように、まさに学校だけの問題ではなくて、地域で子どものスポーツ機会をいかに作るかというようなことを、教育委員会の方でも検討しております。スポーツ庁の方でも協議を進める中で、5月末頃に提言が出るという話も聞いておりますので、それも踏まえながら、今後の横浜の部活動の在り方を考えて行きたいと思っております。横浜で特徴的なのは、地域指導者、部活動指導員 600 名を超える方々にご協力をいただいている現状がございます。全国それぞれの地域によって、この地域移行の形というのは変わってくると思いますので、横浜としてこういった形で地域移行を図っていくかということ、全国を調べても同じ形では決まっていなと思います。やはり横浜の特性を活かした、地域の方々にご協力をいただいている指導者が 600 名を超えるというような現状を踏まえながら、ぜひ子どものスポーツ機会を、地域の方々と共に作っていくという活動をもって進めてまいりたいと思いますので、どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

○山口会長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。それでは平野委員、お願いいたします。

○平野委員 追加修正を伺ったところですが、私も佐々木委員がおっしゃった子どもの体力のところ、やはり少し違和感があります。まずは「時代にそぐわない」と言っておきながら、次の文章では「体力が高く、総運動時間も長いことが明らかになっている」と体力を肯定しながら、その次の文章では、「資質能力の向上」といって、体力の話がなくなってしまうという流れですので、話の筋を通していただきたいな、というところがございます。前から申し上げていますが、子どもの体力に焦点を当てているところは、定量化がしやすいというところで仕方がないのかも知れませんが、本来は子どもであれば自分の身体を思うように動かせるようになる、というところが大事なはずだと思います。その辺も踏まえて書いていただけると幸いです。

○山口会長 ありがとうございます。只今のご発言にご意見、ご質問のある方いらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは宮嶋委員、お願いいたします。

○宮嶋委員 本当によくまとめて下さって、ありがとうございます。もう少しうまく書けないかな、と思ったのは、「第2章の社会情勢の変化」で、国の第3期スポーツ基本計画を参酌ということで書いてありますが、②様々な立場・背景・特性を有した人・組織が『あつまり』、『ともに』活動し、『つながり』を感じながらスポーツに取り組める社会の実現を目指すという視点。これなのですけれども、もはやこれはスポーツというよりも、「WELL-BEING」なのだろうなという気がしています。横浜市スポーツ推進計画ですから、ここに「WELL-BEING」の観点が含まれているのは当然だと思うのですけれども、スポーツという言葉だけではどうしても、やはり言葉の定義としてコンペティションスポー

ツのイメージが強いと思うので、「WELL-BEING」という言葉を入れていただけたら良いと思います。もうこれも日本語になりつつありますし、これから人生 100 年時代、子どもからご高齢の方まで、コンペティションスポーツをやっていくという考え方よりは、「WELL-BEING」としてのスポーツへの取組というような考え方が良いのではないかと思います。もし書き込めるとしたらここかな、と思いました。

もう 1 つ、「人・組織が『あつまり』の「人・組織」。これは恐らくお書きになった方は、もはや官だけではなくて、民の力を借りながら、色々やっていかなくは間に合わない、これからはそういう時代なのだ、という意識があるのだと思います。「WELL-BEING」というのは、元々民が主導権を握っていかないと、どうにも動かないものなので、そういう意図を持っていただきたいというのがあるのです。ですから、ここに民の力をどう書いていくかなんですが、例えば「スポーツコミュニティを醸成すること」とか。これは部活動の地域移行の問題にも結び付くのですけれども、スポーツコミュニティを作ることで、部活動を吸収していくということも可能なので、何かそういう書きぶりのようなもの出来ないか、と思いました。先程、小熊委員がおっしゃった、都市計画とコラボしていくという視点が非常に重要で、これが正に官が行うべきスポーツ振興のコアになるものだと思います。それが都市計画と一体になって、はじめて物事は進んでいく。ソフトとハードが一緒になっていくことで、物事が進んでいく。そこに民がコミュニティとしてどう関わっていくかという、この 3 つの形が非常に重要ではないかと思うので、もしここを少し変更できるとしたら、②のところか、第 3 章の目標のところ書きこむか。そのような視点を包含していただくことは出来ないか、と思いました。

○山口会長 ありがとうございます。それでは只今のご発言に、ご意見、ご質問のある方、いらっしゃいますでしょうか。それではゼッターランド委員お願いいたします。

○ゼッターランド委員 このような形で作成、また修正していただきまして、ありがとうございます。先程から各委員の方がおっしゃっているところですが、計画を実行して行く上で、やはり自分事、どこが主体性を持って進めていくかということ、推進が随分違ってくると思います。例えば、資料 1 の「第 1 章 計画の実現に向けた連携・協働」のところ、「横浜市は」という修正をさせていただいているのですけれども、それぞれ、どこと協働・連携をしていくか、というところをもう少し細かく踏み込んでいただいて、この分野であればこここここの連携が考えられるのではないだろうか、という風に、先程横串を差すというお話もありましたが、「そこが考えられる」、「可能性のあるところでいうと、ここである」ということを明記していただけると、より関係団体も自分事として、どういう形で進めていくかということも、具体的に見えてくる部分もあるかと思います。

もう 1 点、「昭和 60 年代の体力水準」というところで、文言の使い方は色々あると思うのですけれども、私が危惧しているのは、日本の特性とって良いのか分かりませんが、過去に良いものがあつた時に、色々社会情勢が変わってくると、過去のものに倣おうとするのだけれども、それが今あまりそぐわない、時代遅れの目標のようにとらえられてしまうところです。でも、良かったものは良かったものとして、そこに戻るといよりは、良かったものをベースに、その先どう進めていくことが出来るか、という方向はすごく大事だと思います。両極端に 180 度全く違う方向に振れるということではなくて。そのバランスのとり方というのは、とても重要だと考えております。ここで文言の修正はあると思うのですけれども、

体力の向上、回復だけではなくて、スポーツの持つ良さ、スポーツに携わることの良さ、それによってどんなことが育まれるのか、ということですね。スポーツライフを実現するための資質・能力、それは一体どういうものなのか、ということがその中に含まれているのか、というところまで言及出来るようであれば、そこも加えていただけると良いと思いました。

○山口会長 ありがとうございます。只今のご発言にご意見、ご質問ある方いらっしゃいますでしょうか。

それでは全体を通してご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは本日の意見につきまして、事務局の方から何かございますでしょうか。

○事務局 本当に色々、様々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。いただきましたご意見につきましては、この後、事務局の方でも精査させていただく中で、また会長とも意見交換させていただければと思います。宮嶋委員にいただきました「WELL-BEING」につきましては、社会情勢の変化を踏まえた中で、まさに今、日本語になりつつあるというお話をいただきましたが、今回、横浜としても本編の36ページ、「目標1 スポーツを通じた健康増進」の中に記載させていただいております。そこをどのような形でもう少ししっかり打ち出せるか、少し検討したいと思います。また、ゼッターランド委員からいただいた、スポーツの持つ良さや効果、こちらと同じページの「目標2 スポーツを通じた共生社会の実現」の中で、冒頭のダイバーシティ&インクルージョンの視点であったり、スポーツを通じた共生社会につながっていくと、誰も個性を取り残すことなく地域が形成されていくと、そういったようなこともイメージはしているのですが、もう少しうまく表現できるか検討して行きたいと思っております。どちらにしましても、繰り返しになりますが、いただいたご意見はしっかり事務局の方で検討させていただいて、改めてご報告させていただければと思います。

○山口会長 ありがとうございます。本日の審議会が最後の審議になりますので、大変恐れ入りますが事務局から説明ありました通り、いただいたご意見の修正につきましては、会長一任ということでよろしいでしょうか。

○小熊委員 「WELL-BEING」の表記は、最近よくカタカナで出てくるように思いますが、いかがでしょうか。

○宮嶋委員 私はどちらでも良いです。皆さんでお考えいただければと思います。

○事務局 あえてこの表記にしたのは、現在進行しております横浜市の中期計画の方でも、英語表記で先に走っていたものですから、そちらに合わせております。全体のバランスを見ながら相談させていただいて、より市民に伝わりやすい表記にして行きたいと思っております。

○山口会長 ありがとうございます。それではこちらの答申案を改めて、答申とさせていただきます。それでは推進計画につきましては、これでとどめさせていただきたいと思っております。

次の報告事項、令和4年度予算概要につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

## 5 報告事項

令和4年度予算概要 スポーツ振興費（当初予算）抜粋

○事務局 それでは資料3、令和4年度予算概要スポーツ振興費の抜粋版をご覧ください。1枚おめくりいただきまして、19ページのスポーツ振興費でございます。本年度の予算が36億9710万9千円、前年度が49億4594万2千円ということで、差し引き12億4883万3千円の減額となっております。減額の内訳は、オリンピック・パラリンピックが終了したことに伴いまして、約16億円の減でございます。その反面、やはり施設の老朽化に修善費等が増額になりまして、増額分が約4億円の増、ということで差し引き12億円減となっております。そこから下に主な事業が並んでおりますが、少し増減のあるものについて、ピックアップしてご説明させていただきます。「(1) スポーツ関係団体支援事業」でございます。こちらは横浜市スポーツ協会等への事業費の補助になっておりますが、4億4718万8千円ということで、前年度に比べて800万円程の減、こちらは事業見直しによるものでございます。「(4) インクルーシブスポーツ推進事業」でございます。こちらは1071万円でございますが、前年度に比べて約800万円増になっております。こちらはパラリンピアンによる学校訪問を実施するのと、パラスポーツの競技力向上事業を実施するというようなことで、増ということになっております。20ページの「(9) 市民参加型スポーツイベント等開催事業」が、1569万1千円で、400万円増になっておりますが、これは予算の組み替えがございましたので増えております。ラグビーレガシー事業ということで、ラグビー選手による学校訪問等の事業を、ここの予算に統合したことによる増になっております。「(14) 屋外プール再整備事業」ですが、こちらは本牧市民プールの再整備で、こちら2500万円ということで700万円増ですが、これは工事着手によるものでございます。21ページの「(16) スポーツ施設管理運営事業」ですが、こちら「ア 特定天井脱落対策の工事」、「イ 体育室空調機設置工事」になりまして、19億7271万8千円で、前年度に比べて約4億円の増となっております。「(17) 市民利用施設予約システム事業」でございますが、こちら施設利用の際の予約のシステムになります。こちら6816万円で、前年度に比べて2700万円の増ですが、これは新たにシステム開発をしておりますので、その費用になっております。ご説明は以上でございます。

○山口会長 ありがとうございます。只今の予算概要の説明に、何かご質問やご意見がございますでしょうか。

○宮嶋委員 恐らく今までの前例を元に、今年はどうしましょう、と作っていらっしゃると思います。来年度からになるかも知れませんが、中学校の部活動の地域移行を考えると、本当は3番の地域スポーツ支援事業のところ、もっと膨らんでも良いのかな、と思います。そういうこれからのことが、ここから読み取れないのが残念です。今まで通りではなく、本当はそういうことも考えてやっていただきたいです。

○山口会長 ありがとうございます。他よろしいでしょうか。それでは本日予定された議事は、終了ということになります。

第25期審議会の任期は令和4年8月3日までとなっておりますが、予定されている会議は本日で最後となりますので、各委員の皆様から一言ずつ、ご挨拶をいただければと思います。それでは名簿順で石黒委員からお願いいたします。

## 6 その他

○石黒委員 今季初めて委員を務めさせていただきましたが、大変勉強になりまして、貴重な機会をありがとうございました。かつ計画策定という大役の期に拝命することになりまして、やはり感じたのは、横浜の持てるリソースは他の自治体と比べて桁違いだということです。このリソースを持ってして出来ないことは、恐らく他の自治体には出来ないということになるかと思いますので、今回完成する計画を踏まえて、是非他の自治体のお手本になるような取組を、たくさん進められていただければ、と考えております。どうもありがとうございました。

○小熊委員 関わらせていただき、ありがとうございました。計画策定という大きなミッションがある中、ここまで進んで来て、今後こちらがどう活用されて行くのかも含めて楽しんでございます。私も大変勉強させていただきました。どうもありがとうございました。

○小田委員 会の中で勉強させていただきました。その中で幾つか感じたことを述べさせていただきますと、先程も申し上げたように、色んな計画がありますが、これをどういう風にまとめて行くかというのは、誰がやるかというところがこの中ではちょっと分かりにくいのが、残念なところだと思います。そういうところで、横浜はこういう枠組みでやるのだと、外郭団体も含めると色んな団体があつて、それを誰が組んで行くのかということを明確にすると、横浜らしさが出てくるのではないかと感じたところです。

あとこれは個人的なことですが、専門的になってくると、文言が英語とカタカナが多くなっていく印象があります。これは時代で仕方ないのかもしれないですが、市民の方が文章を見るという視点は、必ず持っていただきたいです。そうしないと、何が書いてあるか分からないものになってしまい、伝わらなくなると思います。ありがとうございました。

○佐々木委員 今季ありがとうございました。私もまだまだ色々勉強しながら、携わらせていただきました。やはり大きなイベントがこの期間にありましたので、横浜市にはそういうものを形として作っていける、すごい力があるのだなと感じました。それと同時に、市民の声、先日の建物の名称でも、自分たちのものとしての意見がすぐ出るところも、感じ入ったところで、そういう市民の存在が目に見えるような形で、大きなものにどんどんなっていくと良いと思いました。子どもや若い人の力が、これから先の未来に向かって、どのように力となるのか、というのが、現状と先程の子どもの話ではちょっと乖離している部分があつて、その流れにこの若い力がなっていくような環境が、もっと作っていけると良いと思いました。非常に勉強させていただいてありがとうございました。

○萩委員 横浜は本当に社会的資源も多く、色んなことが実現できそうな、夢のあるところだと思います。スポーツ都市を目指すということですので、是非この道のトップランナーになって欲しいと思います。国の基本計画もそうなのですが、とても良いことがたくさん書いてあるし、本当にこういう方向に進んだら良い、と思うことがたくさんあるのだけれども、これがなかなか市民まで行き渡らないので、出来ればこういう活動をしていることや、こういう計画があることを、市民にもちゃんと知らせられるような仕掛けを今後作っていただいて、市民をいかに巻き込んで、皆で創り上げていくかということがこれから求められてくると思います。地域スポーツを成功させるためには、最も大事な市民が積極的に関わるとい

うことですので、その辺りを上手く仕掛けて、今後また、より一層のスポーツ振興をしていただけると、1つのモデルになると思うので、期待しております。この審議会に関わって大変勉強になりましたし、色々なものを見せていただいて、ありがとうございました。

○平野委員 横浜市民としてスポーツが振興していくことを願っております。ありがとうございました。

○宮嶋委員 何年もお手伝いさせていただいておりますが、今回はやっぱりスポーツに対する概念とか、色んなものが変わりつつある。中学校の部活動もそうですし、コンペティションスポーツから、全ての世代の人がより豊かな生活をするためのスポーツというような、ごく特定の人たちだけのスポーツではないというように、スポーツの概念が変わってくるターニングポイントにいられたな、ということが、非常に私は価値が高い時にお手伝いさせていただいて良かったな、と思っております。先程も申し上げましたけれども、こういう時に官の仕事は何なのかといたら、やはり官だけでは出来ないの、民も上手に使っていく。そして官がやるべきことは都市計画のようなところで、人にスポーツをさせる、というのではなくて、思わず人々がスポーツ、身体を動かしたくなるような環境を整えてあげる、というのが、やっぱり官の仕事なのだろうな、という気がします。そしてそれを民の人たちが、「いいね」、「手伝いましょう」、「皆でやりましょう」というような、そういう基盤づくりなのだろう、という風に思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○ゼッターランド委員 この数年、スポーツに対する考え方や、スポーツの価値を改めて見直す、大きな転換の時期だったのではないかと思います。その時期に、この横浜市のスポーツ推進計画の策定に携わらせていただけて、また、様々なジャンルのエキスパートの先生方のお話も伺えて、私自身大変勉強になりました。スポーツの持つ力、価値というものが、どういうものなのか、どういったところにあるのかということ、改めて考え直す良い機会をいただきまして、感謝申し上げます。スポーツが、ちょっとした機会に身体を動かしたくなる、それによって、身体を動かすだけでなく、動かす人を支えたり、応援したり、見たり伝えたりということで、スポーツを中心に多くの人が幸せだな、と感じられるような、そういったスポーツが浸透していくような方向にいつてくれたら良いな、と願っております。ありがとうございました。

## 7 会長あいさつ

○山口会長 ありがとうございました。それでは私からもご挨拶させていただければと思います。委員の皆様におかれましては、毎回議事進行にご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。今回の審議会では、会場とリモートのハイブリッドということで、時間的に会場での出席が難しい場合でもリモートで参加可能ということで、より多くの委員の皆様にご参加いただくことが出来たと思います。皆様のご参加により、活発な議論を積み重ねることが出来たことを、厚く御礼を申し上げます。様々なお立場からご意見、ご提案をいただきまして、スポーツ振興についての議論が深まり、この第3期横浜市スポーツ推進計画の内容が、より良いものになるのではないかと考えております。本当に皆様の貴重なご発言で多くを学ばせていただきまして、ありがとうございました。

令和2年8月4日の第1回会議で、会長を拝命いたしましてから、約2年間を振り返りますと、東京2020オリンピック、パラリンピックが1年延長となりましたけれども、関係する皆様のご尽力もあり、無事に開催に至りました。横浜では野球、ソフトボール、サッカーの試合が行われ、本当にそれぞれがすばらしい戦いで、野球、ソフトボールでは日本が金メダルを獲得することができました。オリンピックが開催出来て、勇気、感動、本当にスポーツの力の素晴らしさを改めて感じたところでございます。横浜市民のスポーツへの関心も高まり、今後も市内のスポーツ施設が大規模な大会を開催できるという、世界へのアピールにもなったと思います。しかしながら、横浜市スポーツ協会の立場で、やはり地域で各種目、それぞれの大会、区民大会が原点でありますし、そういったものを基に、今後とも引き続き横浜市に大規模なイベントを開催していただき、オリンピック・パラリンピックでは活動する機会がなかったボランティアの方にも、活躍できる場ができると願っております。今回策定される計画を通じまして、スポーツ都市横浜が実現されることを目指し、私たちも協力して参ります。皆様におかれましても、市民スポーツの発展のため、今後とも変わらぬご指導、ごべんたつ、ご協力を賜りますように、お願いを申し上げます。本当にありがとうございました。

○事務局 山口会長ありがとうございました。委員の皆様には、2年間にわたりご審議をいただきましたこと、深く御礼申し上げます。最後になりますが、横浜市を代表いたしまして、市民局長の石内よりご挨拶をさせていただきます。

## 8 市民局長あいさつ

○市民局長 皆さんこんばんは。市民局長の石内でございます。事務局を代表いたしまして、一言ご挨拶をさせていただきます。山口会長はじめ、委員の皆様には公私お忙しい中、この会議にご出席いただいたこと、そして、それぞれご専門の立場から、会議ごとに貴重なご意見、ご示唆をいただいたこと、改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。2年間にわたってご議論いただき、本日は第3期横浜市スポーツ推進計画、答申案についてご審議いただきました。本日も本当に忌憚のないご意見、ご指摘を多数賜りました。現在、横浜市では、横浜市中期4か年計画という市全体の重要施策の骨組みの計画を作っております。この中期4か年計画の中に、答申いただいた第3期横浜市スポーツ推進計画についても、盛り込んでいきたいと思っております。この第3期横浜市スポーツ推進計画については、先生方からご指摘ありましたように、ただ計画を作っただけではなくて、ここに書かれている中身について、官としてどういう風に進めていくのか、行政の役割は何なのかというのを強く認識しながら、また、官だけではできない話ですので、関係するスポーツ団体、協議会、あるいは民間企業の皆様などと力を合わせて、全力で取り組んで行くという覚悟で進めて参りたいと思っております。本当にありがとうございました。

先程、山口会長からありましたように、昨年の東京2020大会、コロナ禍ではありましたが、横浜はサッカー、野球、ソフトボールの会場になりました。横浜市民にも本当に多くの夢と感動、希望を与えてもらいました。これは記憶にとどめるだけではなくて、横浜市としては、やはりレガシーとして、障害者スポーツ、インクルーシブスポーツの展開、それから、ボランティア文化の醸成等にも力を入れていきたいと思っております。

私も2年間、このスポーツ振興の仕事に携わらせていただきまして、スポーツというものは心身の健康とか体力向上ではなくて、地域コミュニティの活性化や、市民の生活をより豊かにする、より幸福にしてくれるものということを強く認識しました。引き続き、全力で取り組んで参りたいと思いますので、ご支援、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。本当に2年間、どうもありがとうございました。

## 9 閉会

○事務局 以上をもちまして、第25期横浜市スポーツ推進審議会第7回会議を終了いたします。皆様どうもありがとうございました。